外国語活動Ⅱ　10月19日のリフレクション

①「読むこと」「書くこと」も母語と一緒で、まず音声で十分に慣れ親しませることが大切であり、分かる単語で練習することが大事だと学びました。「読むこと」「書くこと」だとしても、音声で十分に慣れ親しませる、音声を十分に与えることが重要だということはあまり意識していなかったので、学ぶことができてよかったです。また、ただある例文を書き写すとかではなく、子どもたちが書きたいこと、伝えたいことを伝え合うという活動が、子どもたちが楽しんで意欲を持って取り組むためにも必要だし、コミュニケーションの観点から見ても大事だと思いました。山中先生の七夕の短冊やなりたい人になりきって自己紹介文を書くアイディアは良いなと思って、そういう工夫が本当に大切になってくると感じました。ワードリストも、子どもたちが書きたいことをリサーチした上で、それをリストにして、本当に困っている子どもに支援するという工夫も生かしたいと思いました。

②本日の講義では、読むこと書くことの指導について勉強した。読むこと書くことの指導の前提として、まず聞くこと話すことに十分慣れ親しんでいる必要があるとわかった。それができていないのに、読み書きの学習をするのは学習者の負担が大きく、適切ではないことを認識した。それを受けて、自身が小学校や中学校で英語の授業を楽しいと感じることができなかった原因の一つにそれがあるのではないかと感じた。そして、私自身の英語への苦手意識は今現在も続いている。このように、間違えた手順で読み書きの指導をしてしまうと、児童の英語嫌いに繋がってしまう可能性がある。その重大さを認識した上で、理解した上で、指導に携わっていくべきだと痛感した。いよいよ来週は模擬授業。トップバッターでとても緊張するが頑張りたい。

③今回は、子どもに英語を教える際のステップについて学んだ。子どもに教えたいことが、読みや意味を理解しているものであれば英語で教えることができる。子どもがイメージがつかない、意味がわからない、どんなものかわからないものについて英語で教えると、子どもが英語に親しめなくなり、苦手意識を持つことにつながると考えた。読むことや書くことをいきなり求めるのではなく、まずは聞くこと話すことについて親しみをもたせ、スムーズに学習が展開できるようにステップを踏んでいくことが大切だと学んだ。これまでの私は、この四つについて、順序があることを意識に上げていなかった。子どもたちがつまずくことなく楽しい外国語活動を行うためにも、出来るわかる授業にしたい。順序に配慮することも大切なことだということに気づくことができてよかった。（名前がありません）

④自分が想像していた以上に、小学校における外国語活動ではそこまで多くのことを求めていないのかもしれないと感じました。書くことに関して言っても、示されたものを真似して書き写したりというレベルというので、授業するこちらとしてはへんにプレッシャーを持たなくてもいいのかなと思いました。確かに英語と日本語での記述の仕方の違いなど、子どもたちは戸惑ってしまうと思うので、そこはしっかりと教えてあげる必要があるなと感じました。子どもたちと楽しみながら英語に触れ、英語を学んでいきたいなと思いました。

⑤いよいよ来週から模擬授業となってくるが、これまで学んだこと、他者の授業や考え等も参考にしながら、自分の納得できる授業が行えたらいいなと思う。楽しみです。

⑥今日の講義から、外国語を学ぶ上で最初に「聞くこと」と「話すこと」に慣れ親しむことの大切さを改めて知った。特に、日本語と英語のシステムが異なるから、英語で急に単語を書いても意味が分からないことや読み方がわからないことは、小学校や中学校の子どもたちに多くいるだろうなと思った。子どもたちが慣れ親しんだ英語や書きたいものを英語で書くという活動から取り組んでいく必要がある。また、聞くことが大切ではあるがそれを授業の中だけで充実することは難しいなと思った。大城先生の留守電話を利用して子どもたちに英語を聞かしていたように、私も何か英語を聞かせる工夫を考えていこうと思った。また、文字によって英語を学んできた私たちだから、子どもたちの前に立つ前に音声で今からでも学ぶことをするべきだなと感じた。

⑦読み書きが身につく語学学習のためには、4技能を同時に学習させるのではなく、学習する表現について「聞く」「話す」ことを十分に慣れ親しませ、「読みたい」「書きたい」という気持ちを実現するという順番があるということが分かりました。山中先生が「はじめは『読みたい、書きたい』と思っていたのに、学習が進むにつれ『難しい』と感じる児童がいる」とおっしゃっていたのを聞き、私もはじめは英語が好きだったのに、いつの間にか「難しい」と感じるようになっていたことを思い出しました。それは、十分に音声で慣れ親しむことや、表現として使うことがないまま、文法事項を通して学習しようとしたからだと気づきました。小学校中学年に「外国語活動」という時間が設けられたことで、英語表現に親しみ、英文字に慣れ親しむことに時間をかけられるようになったことは、外国語学習を段階的に進める仕組みだと感じました。このことから中学年の英語でも、英語の表現を繰り返し発音したり、自分が伝えたいことを表現したりすることに慣れ親しむことで英語の表現を使えるようにすることが求められていると考えました。また、児童が書けることに満足するのではなく、十分に表現に慣れ親しませることで、意味や発音が理解できているか、児童が学べているかを確認することを大事にしたいと思いました。

⑧今日の講義を受けて、｢アルファベットには名称と音がある｣と聞いて初めてそれを理解しました。つい先日、中学一年になった弟から｢Cってシーだけじゃなくてクっても読むの？｣と聞かれ、｢そうだよ｣と答えたものの、その違いを説明することができなかったので、そう説明するべきだったなと反省すると同時に、教壇に立つ前に今ここで理解できてよかったと思いました。あとは、確かに自分が英語を学び始めたころのこと、英語ができなかったころのことを全然覚えていないなと思いました。このまま何も考えずにいると、先生が仰っていた｢書けているから読めているのだろう｣と勘違いして子どもたちを置いていってしまうような授業を作ってしまうんだろうなと感じました。今回は模擬授業ではありますが、子どもたちの実態にきちんと即した授業を心がけたものを作れるように考えなければと思いました。先生の｢4年かけてやるんだから、焦らずゆっくりゆっくりでいい｣という言葉に、肩の荷が降りたような気がしました。あれこれなんでも教えこもうとするのではなく、子どもの興味に沿った教材や授業を作っていこうと思います。講義ありがとうございました。

⑨今回講義を受けて感じたことは、日本語と英語のシステムを認識することの大切さである。日本語は、平仮名を覚えれば、平仮名で書かれれば単語が読めることができるというシステムであるが、英語はそうはいかない。そのシステムの違いが外国語を習得する際に障害になるのではないかと感じた。大学生の現在では、アルファベットの名称と単語内での発音の仕方は違うと認識できるが、初めて外国語に触れる小学生からすれば、「なんで同じ文字なのに読み方が違うの？」と混乱してしまう。混乱したまま進んでしまうと、重要な基盤が形成されていないので、外国語を通して接することの楽しさに気づく前に、知識面で意欲が下がってしまうと感じた。子どもがこのようにならないためにも、教師が日本語と英語のシステムの違いを認識しておくことは重要なことだと感じた。2つの言語システムの違いを理解した上で授業を作っていくと、音声に親しむことの大切さも実感することができると思うので、音声を伴う活動も自然と取り入れていくことができるのかなと思った。（名前がありません）

⑩本日の講義は読むことと書くことについて学んだ。読むことと書くことを教える前に、｢音声として十分に慣れ親しむことが必要である｣ということが重要だ。でも、自分はそのような授業を受けた覚えがないので、授業観察や講義を十分に受けて音声でのインプットについて学ぶべきだと感じた。また、教材研究についても、子供たちの身近な生活と結びつけたもの(七夕)を用意するべきだ。

⑪中学校入学当初は、英語の音の概念が壁となって苦戦した記憶があります。そのため、小学校の早期の段階から音とアルファベットの名称の2つがあることを伝える必要性を感じました。 また、子ども達にとって負担過重とならないように、音声に慣れ親しんだ上で読み書きの指導を行うことや、させる授業にならないためには、山中先生の「ワードリスト」のように、子ども達が取り組みたい、自分の考えや本当の思いを伝えたいと思えるような教師の一手間が生きた言語活動に繋がると思いました。来週の模擬授業がんばります！

⑫ひらがなのような日本独特のものとはまた違う「英語」を教えるからこその難しさもあり、楽しさもきっとあるんだろうなと感じた。今回、「読む」「書く」の学習活動の前にいかに「聴くこと」によって児童達が英語というものに慣れ親しむかが大事ななと感じた。ビデオの小学校の先生の実践にもあったように、児童達の身近な生活の中から自然に英語を取り入れることをしていって、児童が心から素直な気持ちで「もっと学びたい」「読めるようになりたい」と感じれるような取り組みをしていきたい。

⑬外国語活動の読むこと・書くことでは、子どもにアレもコレも求めすぎてはいけないことを学んだ。私たちの母国語でもある日本語でも、意味を理解してからゆっくりと漢字や語句を読んだら書いたりするため、外国語である英語はそれをより丁寧にするべきであると感じた。音で聴き、意味を理解して、見ながら書くことが最終目標であり、読むこと・書くことによって子ども達が英語嫌いを促進させてはいけない。私たち教師も子ども達を思うあまり、圧迫させてしまうような読むこと・書くことを行わないように細心の注意を払うべきであると感じた。

⑭本日の講義を受講し，「音声に慣れ親しむ」ことの重要性とその後の学習への影響を学んだ。小学校外国語では中学年の段階では主に「聞くこと」や「話すこと」ができるように指導され，高学年になるとその二つに更に「書くこと」や「読むこと」が加わる。これまでの英語教育からの変革によって，4技能の同時進行はなくなったが，まだまだ「音声」の重要性に対する意識が薄いと感じた。日本語話者にとって，第二言語の英語学習は多言語のドイツ語やフランス語に比べて難しさを感じると聞いたことがあったが，今回，それぞれの言語システムの違いによって生まれると知ることが出来た。今回の気付きや学びを，私は「日本語」と「英語」の比較を通して世界の言語多様性を実感させたり，アルファベット等の文字と単語の読み方・発音の仕方の違い比較をしたりすることで，英語だけでなく，自国の言語である日本語の持つ言語システムの特徴を感じられるような教育を実践したい。また，小学校で初めて英語に触れる子どもが多いと思う。相手に気持ちや考えを伝えることの楽しさをコミュニケーションを通して感じられるような活動内容や形態の工夫を，様々な授業実践例を参考にしながら取り入れていけるよう意識したい。（名前がありません）

⑮「読むこと・書くこと」の指導法で、母国語に例えられることによって、小学校から中学校への繋がりが見れて、私の中で小学校の外国語の授業の役割が明確になった気がした。さらに音声の重要さが分かり、模擬授業ではそこに意識して取り組みたい。(平良爽華)

⑯今回の講義では、英語の発音に関する知識を得た。まず思ったのは発音の大切さだ。発音は言語にとって不可欠な要素だが、軽視されがちな部分である。例えば、学校のテストで発音が問われるのもせいぜいリスニングテストぐらいでほとんどが筆記の問題だ。このような書けば点数が取れるテスト形態が発音軽視の教育に繋がっていると思う。このままでは、先生の話にあったような文字を書けるけど読めないといった子どもたちを量産してしまう可能性がある。私はそうならないためにも先生が発音の機会を与える役割を担わなければならないと思った。生徒にとって先生は一番身近な教材である。その先生が率先して手本を見せて、発音の機会を与えることで生徒は頻繁に発音の機会を得ることが出来る。そうすれば自ずと発音を吸収でき先の問題も起こらないだろう。発音は外国語教育の中で一番の課題であると私は思う。この課題を自分でも解決できるように授業を作っていきたい。（名前がありません）

⑰英語の書く読む活動についての内容でしたが、私自身この活動が出てきた中学生から英語が苦手になった経験があり、とても興味深かったです。特に冒頭の犬と訴訟の例はわかりやすく子どものための言語教育を表していると感じました。グループセッションに入った際、同じグループの方でちょうど英語の音に触れる単元の方がいて、どう授業しようか悩んでいたため、英語を話す以外の活動の難しさを改めて実感しました。来週からの模擬授業は正直難しさはありますが、頑張りたいです。

⑱二重投稿のため削除

⑲今日の講義で心に残っていることは、読むこと、書くことの学習の際には聞くこと、話すことで慣れ親しんだ表現を使うことが大切だということだ。たしかに、書くことができてもその音が分からなかったらコミュニケーションに使えないから音を伴って書く、読む学習をすることは大切だと考えた。読むこと、書くことの指導でも自分の気持ちや考えを伝える言語活動を通して行うことの重要さも知った。外国語活動ではとことんコミュニケーションを重視した学習を行うことが分かった。

⑳今回の講義は、外国語の授業の書くこと読むことについてのビデオを視聴した。これまで当たり前のように行っていた書くこと読むことの活動のあり方について考えさせられた。これまで、私は、「書くこと」「読むこと」「聞くこと」「話すこと」はそれぞれが独立した活動だと捉えていたが、それぞれが関連しており、特に「話すこと」「聞くこと」がある程度できるようになった上で「書くこと」「読むこと」の活動が初めて意味を成してくると知った。それぞれの活動の関係を意識しながら、授業作りをしてかなくてはならないと感じた。児童の実態に合わせてそれぞれの活動の内容や分量を調整する必要があると思うので、来週以降に予定されている模擬授業で、そのたくさんの考えや教材のアイディアなどを得ていきたい。

㉑今回の講義は模擬授業に向けて書くことや読むことなどの指導法を学んだ。語順を意識した授業作りなど来週に向けての準備ができたのではないかと思います。いよいよ来週は模擬授業です。自分らしく頑張りたいと思います。（名前がありません）

㉒今回の授業では、十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現から、読み書きを始めると言っていて、自分の中学校、高校の経験では、難しい単語しかやってこなかったので、自分が授業をするとなると、今までの授業のイメージではダメだということに気がついた。また、実践例での、ワードリストの作成はとても良いアイディアだと思った。より、子どもたちの身近な言いたいことを例として出しいたので、子どもたちも授業に参加しやすいと思った。（名前がありません）

㉓今まで自分が受けてきた「読むこと」「書くこと」の英語教育は、音声を使った指導が少なく文字ばかりを書く学習が多かったため、英単語をどのように読めばいいかわからない場面が多くあった。今回の講義で、まずは聞くこと話すことに慣れ親しませてたから読むこと書くことを学習させることの大切さを学んだ。外国語教育で、子どもたちは自分の気持ちを伝えたいと思えば思うほど、語句や単語がわからなかったり難しくなったりするので、教師がどのように支援するか考えなければならない。

㉔言語活動での読むこと、書くことを授業で学習する際は「慣れ親しんだ」ものが大切であると改めて今日の講義で学ぶことができた。新しく学習する単語を書く活動は大切であるが、それを児童の興味とつなげたり自身の生活とつなげたりして親しみを持たせると児童にとって習得しやすい。山中先生が以前に行った書く授業では、最初児童は進んで書くを活動を行なっていたが、だんだんドリル的になって難しさを感じる子が多かったとおっしゃっていた。そのことからも児童が親しみを持てるような工夫をすることが教師には求められると考える。模擬授業でもこのことを踏まえて授業してみたいと思う。

㉕今日の講義で最も印象に残ったこと、大切にしたいと思った言葉は、「音声に十分慣れ親しむ」という言葉である。講義内でも先生がおっしゃっていたように、私たちは母語を習得する際、聞いたり話したりすることから刺激をうけてだんだんと言葉を覚えていき、この習得のプロセスは、日本語である母語だけにとどまらず、多言語にも同じことがいえると理論的にはわかっている。しかし、実際に自分のこれまでに受けてきた外国語の授業や、自己学習を振り返ってみると、何かに焦って、読んだり書いたりすることから急に進めてしまっている気がする。そして見方を変えれば、中学校の時に毎回授業の冒頭で行われていた、先生との短い会話（good morning everyone.　How are you？）などの簡単なやり取りや先生の良く使っていた言葉などはよく覚えている。そういった聞く・話す活動にしっかり慣れしたしませ、さらに読む・書く活動も言語活動として取り入れることが出来れば、外国語活動の学びもさらに実りのあるものになって、子どもたちの学ぶ意味を感じる機会や楽しいと思える機会も増えていくのではないか。実際に現場にでて授業を毎回考える際には、このことをしっかり大切に思って授業づくりに丁寧に取り組みたいと思った。（名前がありません）

㉖「英語」を慣れ親しませる、という活動が外国語活動並びに外国語科にとっていかに重要かということを知ることができた。外国語を一つの言語としてのみ捉えるのではなく、児童の伝えたいこと（本音の会話）を目的とした手段として、児童に「なんて言えば伝わるかな」「もっとしっくりくる言い回しはないかな」といった感情を持たせるという活動を丁寧にすることで、児童の外国語に対する苦手意識が少し減るのではないかと考えた。「伝えたいことが伝わった時の嬉しさ」というものは、日本語においてもその他の言語においても同じことがいえる。指導案作成・授業の際は、このことを念頭におき、授業を展開していきたい。（名前がありません）

㉗今日の講義では、読むこと書くことの指導について学ぶことが出来た。母国語を習得する時に、まずは音声で言葉に慣れ親しむ必要があるが、外国語を学ぶ時も同じ順番で聞くことが大切だということが分かった。日本語と英語とでは語順や発音が大きく違っており、英語で書くことは思っているよりも難しいことである。読み書きの前に、音を聞いて親しみ、真似するという過程が重要であることが改めて分かった。今後の模擬授業では今までに習ったことを意識して授業づくりを行っていきたい。

㉘本日の講義を受講して「外国語」という教科に対してのイメージを改めることができた。私は小学校時代、さらに中学、高校と英語を学んできたが、英語に対しての苦手意識が強かった。理由は単語も全く覚えられないし、まして長文は、わからない単語だらけで、文字を見るだけでも嫌だった。 しかし本日の講義を通して、外国語も日本語と同じということに改めて気づくことができた。講義の中でもあったように、日本語は意識はしなかったが、小さい頃に耳から発音を聞いて、文字を見て、書けるようになってきただろう。だが英語は、小学校はまだ耳で聞くことが多かったが、中学以降は、先に文字から入ることが多かった。意味も発音もわからない英単語を見て、必死に辞書を引いて意味を調べ、覚えていた。発音はテストで問われることがないから、とにかく意味を覚える、ということをしてきた。このような方法では苦手になるのは当たり前だ。 私が実際に体験してきたことからも、子供たちに「外国語」教えるときには、学ばせる順番を意識したい。正しい順番で、かつ子どもたちの興味をひくことができるような、授業作りを、まずは本講義の模擬授業で行いたい。

㉙今日の講義では、外国語の読み書きについてどのような指導を行えばよいのかを学んだ。先生が話していたように、日本語を習得するときも話したり聞いたりでき意味が理解できたうえで読み書きに入っていると気付いた。言語習得のために踏むべきステップは母語を参考にすれば分かりやすいなと思った。外語語という、普段触れない言語を学ぶのだから、よりハードルを下げ、楽しさを感じたり「できる」という感覚がある授業をしていきたい。（名前がありません）

㉚小学校での外国語活動をちゃんとやってきていない自分たちが上手く授業をすることができるのかがとても不安に感じた。塾で中学生に英語の質問に答えたが、自分自身、上手く説明することができていなかったり、生徒の中には音声と英単語のスペルとに結びついていなかったりする生徒も多くいることが分かった。聞くことを多く取り入れずに暗記に頼った外国語活動の授業を中心に受けてきたからであると思った。次回からの模擬授業を頑張っていきたいと思った。（阿藤将太朗）

㉛講義ありがとうございました。今回は外国語活動にはなく、外国語だけにある、「読むこと」「書くこと」について学んだ。二つは上位の領域であり、その前に、「聞くこと」「話すこと・やりとり」「話すこと・発表」で、十分に言語活動を通して、音声に親しむ必要があると感じた。だからこそ、3、4年生に外国語活動が導入されたと考察できる。日本語でこれまで学んできた知識を応用出来ない所がとても難しく、段階的な指導が必要だと感じた。そして、「読むこと」「書くこと」の指導では、ドリル的な指導ではなく、重要なwordをリスト化し、子ども1人1人合わせた指導をしていく事が大事だと感じた。

㉜今回の講義は模擬授業に向けて書くことや読むことなどの指導法を学んだ。語順を意識した授業作りなど来週に向けての準備ができたのではないかと思います。いよいよ来週は模擬授業です。自分らしく頑張りたいと思います。（名前がありません）